

[Press Release]

赤塚 祐二、ジェネヴィーヴ・ゴフマン、イサーク・リスゴー、イッタ・ヨダ、地主麻衣子、神 祥子、  
ニカ・クタテラゼ、田中 和人  
「夢見るキメラ」

Yuji Akatsuka, Genevieve Goffman, Isaac Lythgoe, Ittah Yoda, Maiko Jinushi, Sachiko Jin, Nika  
Kutateladze, Kazuhito Tanaka  
“Dreaming Chimera”

2024 年 11 月 6 日 (水) – 12 月 7 日 (土) 水 – 土 12:00-19:00 (日、月、火休廊)  
オープニング: 11 月 6 日 (水) 18:00~

11/7-10 はアートウィーク東京開催のため、下記の通りオープンします。  
11/7, 8, 9 10:00-19:00  
11/10 10:00 – 18:00

会場: HAGIWARA PROJECTS (東京都江東区常盤 1-13-6-1F)

T: 03-6300-5881, E: info@hagiwaraprojects.com

企画: soda + HAGIWARA PROJECTS

キュレーション: 田中和人 (soda) + イッタ・ヨダ

この度、HAGIWARA PROJECTS では、11 月 6 日 (水) より、アーティストで京都ベースのアーティストランプロジェクト「soda」ディレクター田中和人と、パリを拠点に活動するアーティストデュオ ITTAH YODA (イッタ・ヨダ) のキュレーションによるグループ展「夢見るキメラ」を開催いたします。本展では、日本初紹介となる 3 名の作家を含め、キャリア豊富な作家から注目のエマージングアーティストまで、独自の表現を追求する 8 名の作家が参加します。展示作品は、絵画、写真、立体作品など多岐にわたり、様々な視点で現代アートの可能性を探求しています。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

## “夢見るキメラ”

この展覧会は、この世界の有り様を、同一個体の中に異なった遺伝的背景をもつ細胞が共存する「キメラ」と捉え、多様に枝分かれした世界の部分的、総合的な統合可能性、あるいは結合の可能性についてアートを通じて問うことで、新しい世界の扉を開こうとするものである。3 年前、2021 年に HAGIWARA PROJECTS にて田中和人 (soda) とイッタ・ヨダ (パリ在住のアーティスト・ユニット)、の共同キュレーションによって「Never the Same Ocean」が行われた。この展覧会では、ミューテーション、変異をキーワードにエラーと進化の関係性をアートと重ね合わせることで、多様に枝分かれしながら現在進行形で更新されていくアートの進化可能性を問うた。2024 年、再び田中和人とイッタ・ヨダの企画により「夢見るキメラ」を開催する。

キメラとは一般的に、生物学的に実在する存在や現象を表すが、展覧会「夢見るキメラ」ではキメラの概念は、実在 (あるいは、現実)、不在 (あるいは、夢) を行き来しながら、極限まで拡張されるだろう。過去と現在、あるいは現実と夢、物質と精神、歴史と神話、進化と退化、存在と不在が結びつきながら共存するだろう。ここでは、矛盾が希望となるだろう。

現実と思われる世界を生きながら、私たちは、夢を見る。世界は結合を繰り返すほどに自由で不確かであり、私たちは常に可変的なキメラとなる。  
目を閉じるたびに、世界が新しく更新される。  
私たちは、更新される。  
私たちは、夢見るキメラ。



“Suspense 41224”  
2024, oil, on canvas  
65.2 x 53 cm

### 赤塚 祐二 Yuji AKATSUKA

1955 年 鹿児島県生まれ。画家。1981 年東京藝術大学大学院美術研究科修了。塗り重ねた絵具が作り出す線や形、面が、明確ではない輪郭と融合した、独特の画面を生み出す。日常の何かを思わせるような要素が現れたり、突然消えるように感じたりする、常に変化する抽象的な絵画空間が展開されている。1983 年よりコバヤシ画廊（東京）、鎌倉画廊（東京／神奈川）、村山画廊（東京）、ガレリア フィナルテ（愛知）、ギャラリー米津（東京）、ギャラリエ アンドウ（東京）、ギャラリー池田美術（東京）、Mizuho Oshiro ギャラリー（鹿児島）、ティル・ナ・ノグ ギャラリー（東京）等で絵画を中心に作品を発表。近年のグループ展に「日中韓現代あーと展」貴州美術館(2023、貴州)、「ライアン・ガンダーわれらの時代のサイン」東京オペラシティアートギャラリー（2022、東京）、「MOMAT コレクション：所蔵作品展」東京国立近代美術館（2019、東京）、「抽象と形態 - 何処までも顕われないもの」DIC 川村記念美術館（2012、千葉）、「絵画の現在」鹿児島市立美術館（2007、鹿児島）など。



©Genevieve Goffman

### ジェネヴィーヴ・ゴフマン Genevieve GOFFMAN

1991 年ワシントン D.C. 生まれ、ニューヨーク市を拠点に活動。2020 年イェール大学で彫刻の MFA を取得。歴史とファンタジーを融合させながら、建築、インターネット美学、ファンタジー小説に見られる豊富な視覚的シンボルを取り入れた異世界的な彫刻を創り出す。近年の個展に、「The Triumph Of A Lonely Place」Espace Maurice、モントリオール、「Before It All Went Wrong」Hyacinth Gallery (2022、ニューヨーク)、「Grind」Money Gallery (2021、サンクトペテルブルク)、「Here Forever」Alyssa Davis Gallery (2020、ニューヨーク) など。また、Petzel Gallery、Blade Study、Eyes Never Sleep、Canada Gallery、Thierry Goldberg Gallery、Fragment Gallery、Lubov、Foreign and Domestic (いずれもニューヨーク)、EXILE (ウィーン)、Patara Gallery (トビリシ、ジョージア)、Workroom.Daipyat (ヴォロネジ、ロシア)、Harkawik (ロサンゼルス) でグループ展に参加。



©Isaac Lythgoe

### イサーク・リスゴー Isaac LYTHGOE

1989 年ガーンジー、イギリス生まれ、パリを拠点に活動。2014 年 Royal College of Art, London 修了。物語やストーリーテリングの伝統に由来するアイデアを用い、将来的なテクノロジーが未来の社会構造にどのような影響を与えるかを探求している。権力構造、時事問題、SF、理論が融合した概念に焦点を当てており、複雑で寓話的な作品に反映されている。近年の個展に、「Would I lie to you」Duarte Sequeira (2024、ソウル)、「Sentient beings living worthwhile lives」Galerie Duarte Sequeira (2022、ブラガ、ポルトガル)、「Railway Spine」Super Dakota (2020、ブリュッセル)、「Friend of a Friend」Piktogram (2019、ワルシャワ) など。近年のグループ展に、「Arcanes et Rituals」FRAC Corsica (2024、フランス)、「CUTE」Somerset House (2023、ロンドン)、「After Laughter Comes Tears」MUDAM Luxembourg, (2023、ルクセンブルク)、「In winter;mute」Seventeen Gallery (2022、ロンドン)、「Tree and Leaf」Hannah Barry Gallery (2021、ロンドン) など。



installation view  
at Galerie Poggi  
2023

### イッタ・ヨダ Ittah Yoda

ヴァージル・イッタとカイ・ヨダの 2 人からなるユニット。2013 年 Royal College of Arts 修了。バーチャル・リアリティによって形作った作品を、絵画や彫刻、インスタレーションとして具体化していく。環境から得た「遺伝的・芸術的」な情報を素材に、作品は未来に向けたものでありながら、洞窟壁画や古い絵画技法など、過去の芸術にも深く根ざしている。また近年は香りと記憶をテーマに制作している。近年の展覧会に、Musée d'art contemporain de Lyon (フランス)、Bally Foundation (ルガノ、スイス)、ROH Projects (ジャカルタ)、Collection Lambert (アヴィニオン)、CIAPV (ヴァシヴィエール、フランス)、Paris + by Art Basel (パリ)、the Armory Show (ニューヨーク)、the Rencontres d'Arles (アルル、フランス)、Poush Manifesto (パリ)、the Centre Culturel Jean Cocteau (レ・リラ、フランス)、the Musée des Beaux Arts d'Angers (フランス)、Hagiwara Projects (東京)、SproutCuration (東京)、Cité International des Arts (パリ)、Frieze N° 9 Cork Street (ロンドン)、ARCOMadrid (マドリッド) など。



“空耳” 2023  
ミクストメディア・インスタレーション  
30min.  
展示風景：「MAM プロジェクト 031：地主麻衣子」森美術館（東京）2023-2024年  
photo by Gosuke Sugiyama

### 地主 麻衣子 Maiko JINUSHI

1984年神奈川県生まれ。東京を拠点に活動。多摩美術大学大学院絵画専攻修了。2019年～2020年にヤン・ファン・エイク・アカデミー（オランダ、マーストリヒト）のレジデンスプログラムに参加。個人的な物語をテーマとしたドローイングや小説の制作から発展し、映像、インスタレーション、パフォーマンスなどを総合的に組み合わせた「新しいかたちの文学的体験」を創作する。主な個展に「MAM プロジェクト 031：地主麻衣子」森美術館（2023、東京）、「親密さと距離」Centre A（2023、バンクーバー）「欲望の音」HAGIWARA PROJECTS（2018、東京）など。主なグループ展に「遠距離現在 Universal / Remote」広島市現代美術館（2024、広島）、国立新美術館（2023、東京）、熊本市現代美術館（2023、熊本）、「黄金町バザール」黄金町エリア（2024、神奈川）、「VOCA 展 2023 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館（2023、東京）、「And again {I waitfor collision}」KINGS Artist-Run: Side Gallery（2019、メルボルン）、「第11回 恵比寿映像祭」東京都写真美術館（2019、東京）など。



“確かめる—条件づけられた土地”  
2024, oil, acrylic, pencil on linen  
45.6 x 76.5cm

### 神 祥子 Sachiko JIN

1988年生まれ。2011年武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻卒業。2016年武蔵野美術大学造形研究科美術専攻油絵コース修了。イメージとともに生きることについて、絵を描くこと、見ることを通して考えながら制作をおこなっている。主な個展に、2023年「同じものを見ている」second2.（2023、東京）、「TWS-Emerging 2017：まばたき / あらわれ」トーキョーワンダーサイト本郷（2017、東京）など。主なグループ展に「熟睡、東京編 Sound Sleep in Tokyo, daydream」The 5th Floor（2022、東京）、「ひとりたちのあそび」「引込線 / 放射線：Satellite Final, or …」内の奥誠之企画。HIGURE 17-15 cas、（2022、東京）など。第49回神奈川県美術展平面立体部門県立近代美術館賞受賞。第36回ホルベイン・スカラシップ奨学生。



©Nika Kutateladze

### ニカ・クタテラゼ Nika KUTATELADZE

1989年、トビリシ、ジョージア生まれ。2013年 the Centre of Contemporary Art, Tbilisi (CCA-T) 修了。作品は日常の消費主義やさまざまな環境問題を反映したインスタレーションや彫刻で構成され、近年の作品では、建築空間や都市環境の変容プロセスを取り入れることに挑戦している。近年の個展に、「La Maison Georgie」Maison Des Arts Georges & Claude Pompidou（2024、カジャルク、フランス）、「They were born together, They will die together」Modern Art（2024、ロンドン）、「My Neighbour is a House」Artbeat（2023、トビリシ）、「The way we live together」VITRINE Bermondsey（2023、ロンドン）など。近年のグループ展に、「Summer 24」CCA Berlin（2024、ベルリン）、「Portrait of a Man」X Museum（2024、北京）、「Pinky?」PAUL SOTO（2023、ロサンゼルス）、「Rites of Passage」Oxygen Biennial 2021（2021、トビリシ）、Kunsthalle Tbilisi（2018、トビリシ）など。



“Picture(s) #112” 2024  
Acrylic and analog chromogenic  
print on canvas (with acrylic  
frame)  
34.3 x 25.3 x 6.8 cm (frame  
size)

### 田中 和人 Kazuhito TANAKA

1973年埼玉県生まれ。アーティスト。soda ディレクター。明治大学商学部卒業後、会社勤務を経て渡米。2004年 School of VISUAL ARTS（ニューヨーク）卒業。写真と絵画の関係性を軸に、写真による新しい抽象表現を探求し、国内外で作品を発表。また、京都ベースのアーティスト・ラン・プロジェクト「soda」のディレクターを務め、展覧会の企画にも取り組む。現在、京都と福岡を拠点に活動中。2011年 TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD グランプリ受賞。主な個展に、「Picture(s)」DOCUMENT（2024、リスボン）、「Picture(s)」Galerie Kandlhofer（2023、ウィーン）、「Picture(s)」KANA KAWANISHI GALLERY（2022、東京）、「Picture(s)」Paris London Hong Kong（2022、シカゴ）、「Self-Dual」Galley PARC（2019、京都）、「GOLD SEES BLUE」Maki Fine Arts（2018、東京）、「トランス / リアル - 非実体的美術の可能性 vol.7 田中和人」α M（2017、東京）など。主なグループ展に、「写真鉱山 - 対象の非現実化と写真」Sprout Curation（2023、東京）、「Never the Same Ocean」soda + HAGIWARA PROJECTS（2021、東京）、「S/F - 写真、あるいは、200年後のモノリス」KAYOKOYUKI + soda（2019、東京）など。